



最終決戦！ 優勝はどのチームに！

大会最終日、昨日行われた準々決勝を勝ち上がった4チームによる準決勝を制したのは、知内町職と新冠町職。ともに初の決勝進出を果たした。両チームによる戦いは、延長戦に突入する接戦となったが、貴重な勝ち越し点を挙げた知内町職が、新冠町職の追い上げを退け、初優勝を果たし、来年度、札幌市で開催される全国大会へ出場権を手にした。



●静内古川公園球場

知内町職 1-0 網走市労連

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
網走市労連	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
知内町職	1	0	0	0	0	0	0	0	X	1

初回、知内町職は、先頭打者が四球を選び、すかさず盗塁を成功させチャンスを広げた。2番谷藤選手の犠打で3塁に進め、3番沖津選手の内野ゴロの間、1点を先制した。その後、知内町職阿部投手、網走市労連吉村投手の好投、堅い守りで、一進一退の攻防が続く。ゼロが並んだ。網走市労連は、最終回先頭打者増田選手が中前安打で出塁し、同点のランナーを出すものの後続が断たれ、知内町職が初の決勝進出を果たした。投げては、阿部投手は、被安打2、9奪三振の完封勝利をおさめた。



●三石緑ヶ丘公園球場

新冠町職 4-0 白糠町職

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
白糠町職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新冠町職	1	0	0	0	0	0	1	2	X	4



新冠町職は、中屋選手の今大会2本目となる本塁打で先制すると、7回、8回にも相手の失策に乗じて追加点を上げた。新冠町職原口投手は、2回以降毎回の12奪三振の快投で白糠町職打線を被安打2に抑え完封した。白糠町職は、最後まで原口投手を攻略できなかった。開催地区予選を勝ち抜いた新冠町職が、日高地方本部代表としては、6年振り、自身初の決勝進出を果たした。

●静内古川公園球場 知内町職 4-3 新冠町職

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	計
知内町職	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	4
新冠町職	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3



決勝戦は、両チームとも初進出。実力が拮抗した素晴らしい闘いとなり、緊張感に満ち溢れた試合展開となった。先制点を挙げたのは、新冠町職。2回、一死から浜口選手、千葉選手の連続安打からチャンスを広げ、原口選手の内野ゴロの間に1点先制、さらに酒井選手の内野安打で追加点を挙げ、2点を先制した。その後、新冠町職原口投手、知内町職阿部投手の力投で無得点が続いた。6回表、知内町職は先頭の帰山選手が左前安打で出塁すると、この回だけで4安打を集め、3点を



挙げ、一気に逆転に成功した。しかし、その裏、新冠町職は、四死球から、千葉選手の左前安打で同点に追いついた。その後は、一進一退の攻防で勝負は延長戦へ。延長11回表、知内町職の攻撃、先頭の成田選手が中前安打、続く阿部選手も内野安打で続き、無死1塁2塁とすると、続く森選手がランナーを進める打撃で、一死2、3塁となった。新冠町職は、満塁策をとり、二死を奪ったが、東出朋也選手が左前安打で貴重な勝ち越し点を挙げた。11回裏、新冠町職は、中村



選手の右前安打と浜口選手の犠打をフィルダースチョイスで無死1、2塁としたが、次の打者の絶妙な犠打を成田捕手が強肩で3塁憤殺した。しかし、続く原口選手の進塁打により、一死2、3塁と同点、サヨナラのチャンスを得たが、阿部投手が最後の力を振り絞り後続を断ちきった。善戦するも敗れた新冠町職ではあるが、次年度の全道大会への出場権を手中にし、訪れた大応援団にリベンジを誓った。

